



『稼げる資格2016』(リクルート刊)

# 証券アナリスト(CMA<sup>®</sup>)

経済・証券・財務分析など金融全般の知識を一度に学べる資格。一般企業でも広く役立つ

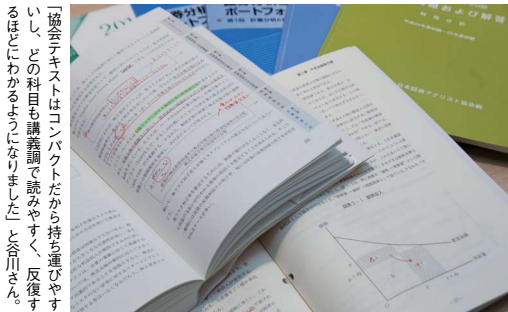
**編集長の注目ポイント** 証券アナリストは、株式や債券などさまざまな証券への投資に関する専門家。資格試験では、国内や世界の経済動向と個別の企業の経営状況を同時に分析するための知識や理論、スキルを幅広く問われます。そのため、証券会社や銀行などの金融機関や企業の調査部、財務部門はもちろん、法人を顧客とする営業部門まで幅広く活用することができるのが特色。試験に合格し、3年以上の実務経験があれば協会の検定会員(CMA<sup>®</sup>)として認定されます。

- 主催団体** 公益社団法人 日本証券アナリスト協会
- 受験資格** 協会が実施する通信講座(1次レベル・2次レベル)で学んだ後、それぞれ試験を受ける
- 目安となる取得期間** 2年~3年

**どんな資格?** 経済や産業の動向などを把握し、証券分析やポートフォリオ(投資配分)の設計、投資価格を算出。投資の助言や投資運用のサービスを提供する。金融機関に限らず、企業の調査部や財務・IR部門など活躍の場が広がっている。

**どう学ぶ?** 日本証券アナリスト協会が実施する通信講座を受講する。受講期間は、1次レベル・2次レベルともに8ヵ月。合格までには、最短でも2年の勉強が必要だ。ほかに初歩・入門向きの「基礎講座」もある。

**どう稼ぐ?** アナリストはもとより、金融機関等に所属するファンド・マネージャー、投資アドバイザーなど、専門知識に特化した職種が増え、活躍の場は拡大。一般企業の財務、IR部門で働く人がいる一方、評論家として活躍する人もいる。



「協会テキストはコンパクトだから持ち運びやすいし、どの科目も講義調で読みやすく、反復するほどにわかるようになりました」と谷川さん。

「商社の業態変化に伴い「数字を読む」スキルが求められるようになった」

三井物産に勤務する谷川さんが証券アナリストの資格を取得したのは、「CFO(最高財務責任者)人材養成プログラム」という社内研修への参加がきっかけだった。

総合商社の業態が貿易を中心とした物流ビジネスから事業投資へと変化しているのに伴い、投資先である関係会社が生産の現場となった。そこに送り込む人材を養成するために進んでいるのがこの研修で、毎年30人の精鋭が参加している。

谷川さんは、当時、営業部に所属。「海外で発電所を作ったり、鉄道を引いたりするインフラ開発部門での仕事だったので、工事入札の準備や受注後の施工管理といった物流ビジネスを中心とした経験しかありませんでした。それが少しずつ投資案件の財務調査や投資先の業績管理とい

「経理と財務の有機的な関連を学べる。一石二鳥以上の内容が詰まった資格。合格して数字への苦手意識はなくなり、違う景色が見えるようになりました。」

「この研修には、証券アナリストの講座内容が組み込まれており、証券分析と財務分析、企業分析の基礎はここで学んだ。「金融は門外漢」と感じていた谷川さんは、7回を1つの目安に徹底した反復学習を行った。「回数を増すこと」に2次曲線的に理解は深まり、面白くなりました。シナプスが繋がるように知識が結合する瞬間は、知的好奇心が刺激されました」と話す。そして「社会人が忙しいのは当たり前」と、多忙を言い訳にしないことを心に決めて勉強に取り組んだ。その結果、1次試験、2次試験と続けて合格。スタートから2年で検定会員に認定された。

現在は財務部に籍を置く谷川さんだが、「資格を取得したことで数字への苦手意識がなくなりました。数字を通して見る世界は、これまでとは違う景色で、新しい可能性を感じます。いつかは関係会社のCFOになつて、現場で経営に携わりたい。営業部で培った泥臭いビジネス感覚と自己研鑽してきた計数感覚を融合させ、最前線で活躍したいですね。」



谷川敬祐さん(38歳)

三井物産(株)勤務。営業部を経て財務部に所属。目下の目標はCFO(最高財務責任者)として現場で経営に携わること。資格は2015年に取得した。